

遊文通信

Vol.15



新しいiPadが3/8に発表されました。今回から呼び方から番号が消え「新しいiPad」と言われています。これはiPadと同じく3rd generationといった具合にこれからはiPad（第3世代）というように呼ばれるのでしょうか。

さて、このiPad。今回の変更で大きな物は圧倒的高解像度を誇るRetinaディスプレイ。iPad2の弱点でもあった高解像度カメラ。超高速ワイヤレス接続があげられます。

超高速ワイヤレス接続は携帯会社との契約が必要ですが、外出先でも通信してYouTubeなどが快適に見えます。

Retinaディスプレイは、2,048×1,536という解像度を持ち、iPad2の4倍。ハイビジョンテレビと比べても100万画素も多いこととなります。この解像度が実にすばらしくて、小さい文字等も拡大しなくても読めて電子書籍にも最適ともいわれています。さらにデジカメの写真を見る時も細部まで表現されます。



高解像度のRetinaディスプレイ(右)

高解像度カメラはiPad2よりぐっと解像度を増し5メガピクセル。FaceTimeというテレビ電話機能を使うとけっこう面白くて友達と遊んだり。カメラ変わりにiPadで撮影したらすぐに大画面で確認できるので盛り上がります。

しかし外見はiPad2と変わらないので外で使っても目立たないという欠点があります。このiPadは新しいかどうかは

説明しないとわかりません。これでは、せっかく買っても自慢する時に「このiPadは新しいiPadだぜえ〜」と説明しなければいけないので残念です。

私はiPadが出るのを待っていたので発表と同時にAppleStoreで購入しました。無料刻印サービスが受けられるとの事だったので、なにを刻印するか迷いました。自分の夢？座右の銘？メッセージ？いろいろ考えて、結局、考えられる一番強い言葉とこのiPadが「新しいiPad」とすぐにわかるような感じで刻印しました。



新しいiPadに刻印

さて、iPadといえば仕事上電子書籍を思い浮かべます。弊社もいろいろテストしているのは以前もお伝えしたと思いますが、最近は開発のハードルが下がってきて、ちょっとしたアプリは比較的簡単に開発できるようになってきました。また、Adobeのソリューションも価格変更があり、こちらもテスト中です。

その中でもjQueryモバイルというフレームワークが強力でHTML5とJavaScriptという技術でかなりのアプリを作成する事ができるようになってきました。なかなか手軽でおもしろいので早速テストがてら子供と一緒に作ってみました。これで作成したアプリはiPadやiPhone、さらにはAndroid端末で利用できます。作ったアプリは五色百人一首の対戦ゲームでなかなかの出来映えになりました。まだAppストアで配信していませんが、これから配信テストをしてみようと思っています。次はこの技術を元に電子書籍のフレームワークを作ってしまうれば良いな、などと思っています。

※五色百人一首は百人一首を5グループ20枚にわけ簡単にしたものです。なんと娘が五色百人一首で現在全国一位なのです。

(たけうちとおる)

栄光の 架け橋 第15回

第15回は株式会社 松原紙工 代表取締役
山本清香さんにお伺いしました。

— 松原紙工についてお聞かせください

昭和33年より和洋紙販売を目的に創業し現在に至ります。紙卸商としては歴史の浅い方の会社だとは思いますが、創業者の先代社長は色々なアイデアで弊社オリジナルの商品化を実現し、専門誌の巻取紙をはじめ、印刷用紙や刺繍用不織布などの開発で数々のヒット商品を生み出したことにより今の松原紙工があります。

— 今、力をいれていることは何ですか？

今というよりずっとそうですが、精確な紙の断裁と丁寧な包装は創業者の「紙屋としての基本理念」でありますから、機械のメンテナンスや作業、運搬などに手を抜くことはありません。実際、日々紙を一番扱う印刷機オペレーターの方々からは絶大な信用と安心のお言葉を多方面から聞かせて頂いております。経営者の皆さん、価格も大事ですが今一度、現場の意見や声を聞いてみられてはどうでしょうか。

二つ目は、無駄を減らし効率化を図ることです。今、多くの印刷会社さんは紙屋に対して以前よりも増して迅速な納品、且つ安値を求められています。紙の卸売業で特に一般の印刷用紙の場合、断裁作業以外は大した付加価値も無く、商品を右から左に動かす商売ですから重たいわりに薄利なのです。ですから、ここ近年は会社内を集約しながら出来るだけ少人数でこなせる状態へと進めています。

あともうひとつは、紙以外の商売ですね。既に数年前から色々な分野で投資してきたものが多少



は収益となってきていますので、今後いかに伸ばせるかが課題です。

— いつも心掛けていることは？

お客様の要望に対応するのは、どの会社もがしている当り前の努力ですから、敢えて言うのなら弊社のモットー「仕事は楽しく」です。ミスのないよう緊張感を持つのも大事ですが、納期や時間に追われて吊り目の顔より、社内はどこも皆が笑顔で対応の方がいいですよね。

— 遊文舎の印象はいいがですか？

私は、まだ少人数での「木原印刷」時代から出入りさせて頂いていたので、現在の遊文舎さんは本当に目覚ましい発展をされたという印象です。創業者である木原会長の夢や思想が進歩を遂げ、今は御子息が社長として受継がれている訳ですから、今後も期待される企業だと思っています。これからも宜しくお願い致します。（聞き手：dandy）



だーくんの 趣味を語れい! Level.15

僕、『だーくん』の趣味はゲーム。というわけで、今までに夢中になったゲームの思い出なんかをなんとはなしに書いていこうと思います。

花粉と黄砂が吹き荒れるこの季節。鼻水、頭痛に気をつけて。今回はこのソフト。「ツインビー」

有名なシューティングゲームです。シューティングゲームといえは、重々しい空気の中進んでいくゲームが多い中、これはなんとも明るい雰囲気ของเกมでした。

雲を打つとベルが出現し、それを打つ回数によってベルの色が変わり、獲得したときの効果が変るといのが一番の特徴ではないでしょうか。

2人プレイ時に、人が育てたベルを取るという、社会の一面を見るような光景もしばしばある作品です。



版下と色指定

印刷の世界から版下が消滅して早や25年近くなる。今、DTPに関わっている人たちの中で版下を知っている人は少数になった。

デザイナーはレイアウトをドラフター（製図台）を使って紙ベースに作成し、それにしたがって写植指定をし、材料が揃った段階でフィニッシャーが版下に仕上げていく。ほぼ分業で印刷版下を作成していた。線一本を引くにもロットリングやからす口（ぐち）（製図用のペンで0.1mmや0.3mmなどの決まった太さの線が引ける）の技術が必要だった。完全に白黒の世界で仕事をし、完成した版下にトレーシングペーパーを被して色指定をしていく。これがなかなか時間のかかる大変な作業だった。カラーのサインペンでアバウトに色を塗り、そこにC30、M40などとカラーチャート（カラーの見本帳）を参考にしながら色を指定していく。B3サイズ位になると2～3時間かかる物もあった。

この作業も経験を重ねていくと2色の掛け合わせ位ならチャートを見ないで指定が出来るようになっていく。色が頭の中に入っているのだ。3色の掛け合わせもチャート無しで大体分かるようになる。経験とはたいたものだと思う。



▲色指定

写真はコピーなどを版下に貼っておき、プリントやポジフィルム等にパーセンテージを指定したものを製版屋さんに渡して製版工程では



▲版下

めてもらう事になる。あらゆる色が想像の世界でなりたっていた。指定色も10%きざみの単位でしか使えなかった。かけだしの頃5%

刻みで指定し、製版屋のおっちゃんに「こんなもん出来るかあ！」と怒られた。DTPから始めた人たちのように色を着けてみて画面を見ながら変えるなんてありえない世界だった。それゆえ一発勝負の真剣勝負で仕事をしていたように思う。ただ、今のスタイルでは味わえない楽しみがあった。それは製版屋さんから色校正があがってきてイメージ通りの仕上がりになっていた時、この時ばかりは心の中で「よっしゃ〜」と叫んだりもした。今の仕事の中では味わえない醍醐味と快感がそこにはあった。

そんな仕事をしていただけだろうか、今、DTPから始めた人たちの仕事を見てみると「ゆるいなあ〜そんなかったるいやりかたして！」なんて思ってしまう事がある。きっとオヤジのひがみなんだろう（笑）はたまたオッサンの愚痴かあ〜！（記：風帆）



▲版下カメラ

今月の一押し本

薬丸 岳
『天使のナイフ』

講談社 ¥1,680

平凡だが幸福に暮らす主人公の愛する妻が殺害される。犯人として逮捕されたのは札付きの3人の不良少年だった。少年法の壁に守られる被疑者にやりばのない怒りを向ける主人公。少年たちの出所を待ち、なぜ妻を殺害したのか問い質そうとする主人公の目の前で、少年たちは不可解な死を遂げてゆく。一体どうしたことなのか？本当に犯人はこの少年たちだったのか？容疑者として逆に警察にマークされてしまう主人公の前

みなさんこんにちは！新旧問わず、私キバナスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

に次々に現れる驚愕の過去と新事実。果たして真実はいかに！

少年法批判だけの単純な構図ではなく、2重3重のどんでん返しと驚きのラスト、ちょっとした感動が待っています。著者は本著にて江戸川

乱歩賞を受賞したとのこと。是非ご一読ください！

（キバナスケ）





(第1話の12)

(このお話はフィクションであり登場する団体・人物などの名称はすべて架空のもので)

—前回までのあらすじ—

原稿として受け取った謎?のUSBメモリーをもったまま社員旅行へ出かけた部長の坂辺。多々美屋食品受付嬢の高本からそのUSBは新種のウイルスに侵されており、絶対に開かずそして処分せず絶対に返すよう求められた。ツアーはスタートした。

午前中の便で関西国際空港を出発した翔文館印刷の一行は平日の僅かな時間のフライトを楽しみ上海空港へと降り立った。天候は穏やかで優雅な空の旅という感じだった…。

空港の中央出口を出るとそこには数台の観光バスが待機しており、その最後列に停車している大型バスのフロントガラス上部には「翔文館印刷御一行様」と記されていた。

バスにはまだ運転手やガイドの姿は無くエンジンも止まったままだった。「ええ、予定より少し到着が早くなったようなのでバスの発車までしばらくここで待つことにします」ベテラン社員で野田原の上司にあたる生産管理部の土井坂が声を上げた。そして続けた。

「まずここからバスに乗って市内観光となりますが、昼食は車内で弁当がありますので…え〜、それを食べて下さい…」

一行は各々談笑したり、空港内を見学したりして過ごした。

「あれ、でもバスに乗る前にツアーガイドが来るはずじゃなかったか?」社長の井原が土井坂に問いかけた。

「そのはずなんですけどね…」

次の瞬間、バス乗り場に群がる一行を掻き分けるように一人の男が慌てた様子でやってきた。「いやあ〜、これは皆様またお早いお着きでえ〜」

彼のハイテンションに一行は静まり返った…。突然現れたその男はまっぴんくの上下スーツに真っ赤な蝶ネクタイ姿。明らかに寝起きのままの髪型を無理やり整髪料で固めている。

彼は小さな旗を持っておりそこには「多々美屋食品御一行様」と記されていた…。

一行が呆気にとられていると男はさらにハイテンションで自己紹介を始めた。

「あ、…あは、あは…、申し遅れました、わたくし本日多々美屋食品様のツアーのガイドを勤めさせていただきます“チャン・ポクサイ”と申しまあ〜す、イエ〜イ、アア〜オウ、よろしく〜ふうわふうわ! ! ……」

一行は明らかに呆れかえって…いや、キレかかっていた…。

「それではまずお近づきの印にわたくし“チャン・ポクサイ”が多々美屋食品様の社歌を皆様にご披露…」

「だから多々美屋食品じゃねえって!!」土井坂が途中でツッコミを入れた。

「へっ…、は…、? アンタ トツゼン ナニヨ イウ アルカ?」

「何で急に片言になってんねん、ほんま…さっきまで日本語ペラペラやったやないか!」

「いや、ちやいまねん…。わしはアロハツアーの社員ですわねん」

「何で上海で“アロハツアー”やねん」

「知りまへんがなあ…。ただ今日は確か多々美屋食品様の旅行のガイドする言うて聞いてきましたんや…ほらここにこうやってツアーの日程も貰ってまんねん…」

チャンには…というか“アロハツアー”には今回のキャンセル騒動は伝わっていないようだ。チャンの話によると多々美屋食品が依頼していた阪神旅行サービスが現地のガイドを委託しているのがこの“アロハツアー”だと言うのだ。

「まあ急なキャンセル旅行を譲り受けたんだから、いろいろトラブルもあるやろう…」

井原は周囲を宥め、そしてチャンに事情を説明した。

「まあ、ほな、わかりました…。ほな行きまひよか…」

チャンが言うと同時にバスのエンジンがかかった…。一連のやりとりの間にバスの運転手がスタンバイを始めていたのだ。翔文館印刷の一行は各々バスへ乗車し始めた。

その中で営業部の大河野の様子が落ち着かない。そして土井坂を見つけて言った。

「さっきから坂辺部長の姿が見えないんですよ…。トイレですかね?」
(つづく)

はじめまして。4月1日に入社いたしました、生産管理課の渡辺世理菜です。初心者なので、先輩に1つ1つ教えてもらいながら、充実した時間を送っています。少しでも早く仕事を覚えて、戦力になれるようにがんばります。よろしくお願いします。



遊文舎がお届けする超特急印刷サービス

最短
3時間
で印刷!

すぐスール

すぐスール

検索

<http://www.yubun.co.jp/>

お問い合わせ・ご相談はこちら



電話 **0120-132394**

E-mail sugusu-ru@yubun.co.jp

受付時間 平日9:00~18:00 (土・日・祝日、年末年始を除く)

無線綴じ冊子
ご注文のお客様に

有効期限
2012年10月末

¥1,000割引

3,000円以上の印刷物につき
1,000円割引致します

どこにも
負けない
低価格



編集後記

今号はいかがでしたでしょうか? 発行して15回を重ねました。仕事では発汗することばかりですが…

(Dandy)

次回、
News Letter
Vol.16を
おたのしみに!

